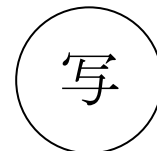


令和2年（2020年）8月25日開会

令和2年（2020年）第11回

茨木市教育委員会臨時会

会 議 録



茨木市教育委員会

◆ 令和2年8月25日（火）第11回教育委員会臨時会を茨木市教育センター セミナー301号室で開催した。

◆ 出席委員

教 育 長	岡 田 祐 一
教育長職務代理者	武 内 由 紀 子
委 員	片 山 正 敏
委 員	篠 永 安 秀
委 員	堀 村 佳 奈 子

◆ 本委員会に出席した者

教 育 総 務 部 長	小 田 佐 衣 子
教 育 政 策 課 長	玉 谷 圭 太
教 育 総 務 部 副 理 事	西 村 宏 子
学 務 課 長	堤 義 孝
施 設 課 長	浅 野 貴 士
社 会 教 育 振 興 課 長	松 本 栄 子
歴 史 文 化 財 課 長	木 下 典 子
中 央 図 書 館 長	吉 田 典 子
学 校 教 育 部 長	加 藤 拓 郎
学 校 教 育 推 進 課 長	青 木 次 郎
教 職 員 課 長	岩 城 大 将
教 育 セ ン タ ー 所 長	新 川 正 知
こ だ も 育 成 部 長	岡 和 人
保 育 幼 稚 園 総 務 課 長	山 寄 剛 一
保 育 幼 稚 園 事 業 課 長	村 上 友 章

◆ 署名委員

委 員	片 山 正 敏
-----	---------

(令和2年8月25日(火)、午後2時00分)

議事日程 (令和2年第11回茨木市教育委員会臨時会)

(於：茨木市教育センター セミナー301号室)

日程	議案番号	件名	摘要
1		会議時間の決定について	
2		会議録署名委員指名について	
3	28	令和元年度茨木市教育委員会事務管理執行状況の点検及び評価の報告について	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

(1 4 時 0 0 分 開 会)

岡田教育長

それでは、ただいまから令和 2 年第 1 1 回茨木市教育委員会臨時会を開会いたします。

本日の出席者は 5 名でありまして、会議は成立いたしております。

なお、本委員会には部長以下、説明員の出席を求めています。

本日の会議を開きます。

本日の会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、議案説明及び質疑に対する答弁につきましてはできるだけ簡潔におまとめいただきますよう、ご協力お願いいたします。

日程第 1 「会議時間の決定について」を議題といたします。

お諮りいたします。

本日の会議時間は午後 4 時までといたしたいと思いますが、異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めまして、本委員会の会議時間は午後 4 時までと決定いたします。

日程第 2 「会議録署名委員指名について」。

本件は、茨木市教育委員会会議規則第 1 7 条の規定により、片山委員をご指名申し上げますので、よろしく願いいたします。

日程第 3 議案第 2 8 号「令和元年度茨木市教育委員会事務管理執行状況の点検及び評価の報告について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

小田教育総務部長

議案第 2 8 号につきまして、説明を申し上げます。

本件は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務について、令和元年度の活動を点検・評価し、市議会に報告するものでございます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」におきましては、教育委員会はその権限に属する事務について点検・評価を行い、議会に報告書を提出することが義務づけられております。また、点検・評価を行うに当たりましては、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用することとされております。

この規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、法の要請に応え市議会、住民への説明責任を果たすため、令和元年度の教育委員会の活動及び事務の点検・評価について報告するものです。

報告書の内容でございますが、1ページから4ページに教育委員会の活動状況について記載をしております。

次に5ページから45ページに、学校教育、社会教育の各分野における主要施策について、点検評価シートに基づき実施した事業ごとの点検・評価を掲載いたしております。

46ページ、47ページには、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用として、学識経験者のご意見を後ほど掲載いたします。

最後に、参考といたしまして、教育委員会の予算、主な事業、第5次総合計画と茨木市教育大綱の相関図、新型コロナウイルス感染症に係る教育委員会の対応について掲載しております。

点検評価シートの様式でございますが、大きく7つの欄に分かれております。まず、施策体系における位置づけと、施策を実現するための目標を説明しております。

次に、昨年度の点検・評価において、今後の方向性または見直し項目としていた内容を踏まえて設定した、令和元年度の達成目標を記載しております。

次に、目標達成のために令和元年度に実施した事業について、その概要及び評価を記載しております。

次に、今後の方向性で見直していくべき項目を記載しております。

次に、今回の点検評価を踏まえた、今後の取組の進め方を記載しております。

最後に、各施策の実現に向けて行った取組のうち、主なものの実施状況を記載しております。

なお、本日ご審議いただきます点検・評価報告書を9月の市議会に提出し、その後、ホームページ、情報ルーム等を活用して公表に努めてまいる予定でございます。

以上で、説明を終わります。よろしくご審議賜りますよう、お願い申し上げます。

岡田教育長

事務局の説明は終わりました。

これより学識経験者との意見交換会を行います。

それでは、学識経験者の方にもお越しいただいておりますので、「令和元年度茨木市教育委員会事務管理執行状況の点検及び評価についての意見交換会」の次第に従いまして、進めたいと思います。

玉谷教育政策課長

それでは、意見交換会を進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

まず、開会に当たりまして、岡田教育長からご挨拶をお願いいたします。

岡田教育長

本日は、令和元年度茨木市教育委員会事務管理執行状況の点検及び評価につきまして、学識経験者の方からご意見をいただき、教育委員会の一層の活性化とよりよい教育行政の推進のため、意見交換会を開催させていただいたものでございます。

学識経験者の三川先生、浦嶋先生におかれましては、本当に大変お忙しい中、来ていただきありがとうございます。

さて、この点検評価は、教育委員会の活性化と市民への説明責任という点に意義目的をおいているものでございまして、これを活用することによりまして、一層の教育施策の推進を図ってまいりたいというふうに考えております。

令和元年度は、第4次学力向上3か年計画「茨木っ子グローイングアッププラン」の最終年度に当たり、3か年にわたるプランの集大成として、各事業を着実に進めてまいりました。

報告書の作成に当たりましては、これまでに先生方からいただきましたご意見を踏まえまして、一定の工夫を行ったところでございます。いまだ不十分な点もございしますが、先生方におかれましては、本市教育の向上の観点から、忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

玉谷教育政策課長

それでは続きまして、出席者のご紹介をさせていただきます。

まず、学識経験者の先生のご紹介をさせていただきます。

お一方、追手門学院大学教授の三川俊樹先生です。

三川先生

三川でございます、よろしくお願ひいたします。

玉谷教育政策課長

もうお一方、関西外国語大学教授の浦嶋敏之先生です。

浦嶋先生

浦嶋でございます、どうぞよろしくお願ひいたします。

玉谷教育政策課長

続きまして、教育委員の紹介をさせていただきます。

ただいまご挨拶をさせていただきました、岡田祐一教育長です。

岡田教育長

よろしくお願ひいたします。

玉谷教育政策課長

続きまして、武内由紀子教育長職務代理者です。

武内委員

よろしくお願ひします。

玉谷教育政策課長

続きまして、片山正敏教育委員です。

片山委員

どうぞ、よろしくお願いします。

玉谷教育政策課長

続きまして、篠永安秀教育委員です。

篠永委員

よろしくお願いします。

玉谷教育政策課長

続きまして、堀村佳奈子教育委員です。

堀村委員

どうぞ、よろしくお願いいたします。

玉谷教育政策課長

では、早速ですが、学識経験者の先生のほうから、点検評価の報告書についての意見を頂戴したいと存じますので、よろしくお願いいたします。

まず、三川先生からお願いできますでしょうか。

三川先生

今回もこのように評価報告書を丁寧にまとめていただいたことを大変嬉しく思っておりますとともに、私ももう随分長く関わらせていただいておりますので、とても分かりやすくおまとめいただいていること、本当に嬉しく思っているところでございます。私は長らく関わらせていただいているので、むしろ分かりやすくなっているのはそのせいかもしれません。今年度から加わっていただいた浦嶋先生からいろいろとご意見を頂ければと思います。

まずは、最初に、教育委員会の活動について、今年も丁寧にまとめていただいております。教育長をはじめ、教育委員の皆様には12回の定例会、3回の臨時会の審議、議決に精力的に活動していただいたほか、学校や関係機関、地域等の行事に出向いてお

られたり、各種の研修会にこれまで同様、積極的に出席していただき、研鑽をしていただいております。

3月以降、新型コロナウイルス感染症による影響のため、さまざまな行事が中止になったり、学校や地域に出向きにくいという状況がある中で、いろいろとご工夫いただいていることかと思えます。引き続きまして、現場の声や状況を積極的に把握していただき、茨木市の教育のために、ぜひご活躍いただきますようお願いいたします。

まず、私のほうから、教育委員会の活動について少し申し上げまして、では、浦嶋先生のほうから、学校教育について少しまたお話をいただこうと思えますが、のちに社会教育については、また私のほうからコメントさせていただきます。

浦嶋先生

それでは、主に学校教育について、少し述べさせていただきたいと思えます。皆さん、よろしくお願いたします。

今年度から初めてということで、事業の詳細が少し分からない部分がありましたので、前回の説明会議の折には、たくさんの質問をさせていただきました。その都度、丁寧に質問にお答えいただきました。ただお答えになるだけではなく、課題に正対したさまざまな取組のご紹介をいただきました。聞けば聞くほど奥が深いなと思いつながら聞かせていただきました。当然、公教育ですから、全ての子どもたちの健全な育成のために、自己実現のために支援していくというのが当然のことなのですが、茨木市におかれましては、元年度までのプランである「茨木っ子グローイングアッププラン」において、一人も見捨てへん教育の実現を掲げ、それを具現化するために、現場のニーズを細かく把握されて、子どもたちの実態に応じた本当にきめ細かな取組をされているなと感じました。

その取組といたしましても、さまざまな仕組みをやっておられる。英語で言いましたら「英語シャワーデー」であったり、さまざまな取組をされています。

それから、取組をするためには、人の支援が要ります。それについても、学習サポーターや、合理的配慮指導員など、そういう学校現場のニーズに応じた人材を派遣されている。

また、就学等の支援事業についても、毎年、支給額を見直すなど、漏れのないきめ細かな取組をされているということで、本当に先ほど言いましたように、一人も見捨て

へん教育の実現というものを具現化されているなど感じた次第でございます。

とりわけ、保幼小中連携におきましては、大阪府のどの市町村でもテーマとしてあげられていますが、幼児教育と義務教育の部分のつながりがどこでも課題になっております。その中で、小中学校の先生方が一緒に授業実践を行われたり、子どもたちに育みたい力である「茨木っ子力」を一緒に検討されたり、そういう具体的な活動を通して連携されているというのが非常に印象的でした。「茨木っ子力」という言葉は、合い言葉と言いますか、一緒になって取り組むのに分かりやすくイメージをしやすい。そんな子どもたちに育みたい力を具体的に挙げながらされているというところは、非常に工夫をされている点ではないかと思えます。

とりわけ、令和2年度から取組をされる「茨木っ子キャリアパスポート」については、幼児教育から取り組むということで、もう大いに期待をするところでありまして、今後どのようにそれが活かされるかということも検証していただいて、成果についてはどんどん発信していただけたら、大阪府全域のレベルアップにつながるのではないかと考えております。私に関わっているところでは、幼児教育からこのキャリアパスポートを導入しているということは、あまり聞いたことがなかったので、本当に期待をしているところです。

あと、「確かな学力」の充実という部分におきましても、学力向上プランからスタートされまして、本当に地道な取組をされてきております。学力向上プラン開始当初は、全国平均を下回っていた状況だったんですけども、その後全国平均を上回る成果も出されていて、何よりもそれをずっと継続しているというのが、茨木市の強みではないかなというふうに思っております。単年度だけ上げる例はあるんですけども、ずっと継続するのはなかなか難しいと思えます。

次の第5次計画にあたる「茨木っ子プラン ネクスト 5.0」では、非認知能力の育成、それから確かな言語力の育成ということが示されています。これも大阪府全体での課題でもありますので、この方向性もしっかり示していただいて、取り組んでいただくことを期待しております。

あと、生徒指導の部分では、不登校について課題が一定見られるわけですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後、学校に来にくい子どもが増えるのではないかなというように推察をされています。実際に増えてからではなく、茨木市の特性として、そういう予測が出来るならば、その前に手を打つなど、そのあたりもきめ

細かく取り組んでいただけたらありがたいと思います。

あと、道徳教育や小学校での外国語教育の導入、それに追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症に対する対応ということで、学校現場はかなり多忙を極めているのが現実だと思います。私がかねてより、働き方改革というのは先生方を楽にするためではなく、子どもに向き合う時間を確保するためということで、「子どものため改革」と思っております。そのあたりも十分にご配慮いただけたら、ありがたいと思います。

あと、体育、運動の部分について点検評価を見せていただくと、子どもたちのアンケートにおいて、体育の授業や運動・スポーツが好きと回答する割合が非常に伸びております。これは、子どもの生の声ですので非常に値打ちがあると思います。体育の授業についても、質問させてもらいましたが、体育の授業にタブレットパソコンを持ち込み、自分たちの動きを動画で確認したり、立命館大学と連携したプログラムにより体力向上に努めていただいているとのことでした。運動が好きだということをつくるのが将来、スポーツに親しむということにつながりますので、非常にここは評価すべきではないかと思えます。

あと、先ほど新型コロナウイルス感染症の話をしましたけども、今回の件で言いますと、子どもたち全員が被害者といいますか当事者という特徴があると思います。もちろん教職員も含めてですけども。そのような中で、当然、さまざまなリスクを抱える子どもたちについて、十分配慮していただいていると思いますが、今まで経験したことがない状況ですので、なかなか見えてこない子どもたちのSOSをキャッチしていただければと感じております。

三川先生

それでは、また三川のほうから、少し申し上げます。今回、浦嶋先生からご指摘のありましたとおり、分かりやすくまとめられているというところは、この茨木市の点検評価報告書の特徴であろうかと思えます。

具体的には、体系図が6ページのところに出ていますが、これを見れば茨木の教育がどうなっているかというのが、本当によく分かる構造になっている。それに基づいて、点検評価シートがその後につけ加えられ、さらにその後、用語解説がつけ加えられている。この用語解説が非常に、茨木市の教育の特徴をあらわしていると、以前から

評価させていただいているところです。

例えば、9ページをご覧くださいと、用語解説に「*2 非認知能力」が記載されている。それこそ教育長が大事にされたこの取組が具体的にこのような形で追記されていますけれども、この非認知能力、とってわかりやすい説明だと私は思います。それから5番目のところに「*5 保幼小中連携カリキュラム」とか、あるいは「*6 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」とか、茨木市の教育の特徴が、ここを読むことによって非常に分かりやすく示されています。

また、浦嶋先生からご指摘いただいた「茨木っ子キャリアパスポート」について、就学前の幼児期から始めているというのは、もう全国でも私は例を見ない、素晴らしい取組だと思います。小学校から後の12年間積み上げるというのは、文部科学省が打ち出していますけれども、その前の基礎部分から保護者の理解をともに図ってもらいながら進めるという画期的な取組であろうと、私は感じさせていただいているところです。

浦嶋先生にご指摘いただいた、「茨木っ子プラン」については14ページのところに分かりやすく具体的に説明がありますので、教育委員の皆様にもぜひご覧ください、茨木市の力を入れて取り組んできたところをご確認いただけたら、そんなふうに思っているところであります。

少し新型コロナウイルス感染症の関係で気になるところがあるというのを、ちょっと私のほうから、学校教育に関係して、申し上げておきますと、実はこれ、前回の説明会議のときに少し触れさせていただいたんですけれども、25ページのところに、教職員健康管理事業というのがあって、ストレスチェックの受検率が75%程度にとどまっているというのが気になります。私も実は、働く人々のメンタルヘルスを専門実践活動の1つにしているので、ストレスチェックの受検率が低いということは、実は気になるところです。このストレスチェックは、高ストレスの方を発見して、例えば、メンタルヘルス不調の早期発見、早期対応ということもあるんですが、このような高ストレスになる組織とか職場をきちんと改善していくということが非常に大事な目的になっています。メンタルヘルス不調に陥る人たちがいるというのが、これはどこによらず今、やはり大きな問題になっているところで、ぜひ、このストレスチェックの受検率というのをまた上げていただきたいということと、このコロナ禍の状況の中で先生方の抱えていらっしゃるストレスというのは一体どれぐらいなのか、私はそれがと

っても気になってくるところであります。子どもたちもそうなのですが、先生方も恐らくさまざまなストレスを抱えておられるだろうと思うので、ぜひ、令和2年度の取組に反映させていただけたら、そんなふうに思っているところであります。

学校教育については、また浦嶋先生から補足、あるいは加えて説明をしていただけるというふうに思いますが、少し私が関係させていただいている青少年の健全育成と社会教育のことについても触れさせていただこうと思います。

具体的な内容については、各点検評価シートをお読みいただければと思いますが、青少年健全育成をここまで積極的に推進されているところは、恐らく大阪府下でも少ないだろうと思います。特に、令和元年度は、高等学校、大学等と連携を図って、高校生、大学生が企画運営するプログラムが増えています。私もそのイベントに参加させていただきましたけれども、これはとても高く評価できると思います。茨木市内には、幾つもの大学がありますので、もっともっと大学に関与してもらい、このような取組を推進されることを期待したいと思います。

この社会教育や青少年の健全育成についても、学校教育で推進されている非認知能力を育てるという点では大きな力を持っている教育だと思います。人々がつながり、地域における教育力をさらに非認知能力の育成のために活用していただければと思います。社会教育の観点から非認知能力を高めるという視点をぜひ、またご確認いただきたいと思います。

一方、3月以降は、この青少年の健全育成とか社会教育にかかわる活動が非常に難しくなっているというところがあって、これ、先のことですけれども、来年度どんなお話になるんだろうかと、やはり気になっているところであります。実は、昨年度も同じようなことを申し上げたことがあって、2年前にちょうど大阪北部地震があり、それから台風があり、それで社会教育の施設等が避難所になったということもあって、それこそ大きなダメージを受けたわけです。そこで、社会教育がこのような社会の状況の中で、しわ寄せを受けることがなるべくないようにしたいと、そのときにも申し上げたような記憶があります。今回は自然災害ではありませんでしたけれども、このような状況により、立てた目標や具体的な活動がほとんど行えないまま、ここまで来ているということがあります。令和元年度の報告書は3月の部分がそれこそ活動がないまま、こういうふうに報告されてはいますけれども、さて、この社会教育のあり方、そのものをこれを機に、もう一度、考え直す必要があるかもしれない。集合研修とか

3密を抜きにしては成り立たないのがひょっとすると社会教育だったのかもしれない、そんなことを思ったりしているところがあります。

少し話があちこちに行きましたけれども、今年度のこの実績を踏まえて、これからの社会教育のあり方を少し考えるきっかけにしたい、そんなふうに思っているところでございます。私からは一旦、以上にいたします。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

浦嶋先生

令和元年度に「第3次茨木市子ども読書活動推進計画」を策定されましたよね。図書館サービスをさらに充実されていくと思いますけども、そのときにぜひ、学校図書館とか学校教育との連携というものを、その中に意識をしていただけたらありがたいなと思います。

あと、報告書そのものについて触れておりませんでしたので、少しコメントをさせていただきます。先ほど、三川先生からもありましたけど、本当にさまざまな工夫をされて、本当に細かい点まできちっと書いていただいて、充実した中身になっていると思います。課題に正対した事業を展開することにより、ニーズの把握を行い、そのニーズに応じた改善をしながら事業を進めることで、一定の成果に結びついていることが読み取れ、PDCAサイクルが機能していると考えます。

その中で、冒頭からも法律に定められた点検評価というのがありましたけども、その機能を十分果たしていただいているんですけど、私はそれプラス、これが議会に報告され、市民の目に触れたときに、行政と学校現場がタッグを組んで、家庭も連携しながら行っている取組やその成果、また、その取組の課題を共有し、一定の安心感を与えるような役割もあるんじゃないかと個人的には考えている次第であります。

という意味で、初見の保護者の方がぱっと見たときに、茨木市では何が充実していて、どんな課題があって、去年と比べてどこが進んでいて、どのあたりをもう少し頑張らないといけないのかということが、深く読み込まないでも分かるような仕組みがあればいいなと思います。またそういうのもご検討いただけたらと思います。

以上でございます。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

それでは、次に教育委員の皆様から所感をお願いしたいと思います。

武内委員からよろしいでしょうか、お願いします。

武内委員

じゃあ、失礼します。三川先生、浦嶋先生、どうもいろいろと貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。丁寧に見ていただきまして、ありがとうございます。

いくつか言いたいと思っていたことがあったんですけど、浦嶋先生が最後におっしゃったことがね、図らずも、私も頭の中にありました。この報告書に記載されている内容は、自分が常々見聞きしている事業とか取組なので、内容が分かるし、成果についても分かるんですけども、これを一般の方が見てね、どこまで見てくださるのかと思ひまして。例えば、ダイジェスト版というか、市民の方と直結するようなところを抜き出して、分かりやすい形で示してもいいんじゃないかなと考えておりました。もし、そのような形で、この点検評価をされている事例がありましたら、教えていただいたら、私たちのほうでもそれを参考に出来るかと思ひます。

今、ご指摘いただいた中で、現場と教育委員会の前向きな取組と、現場がそれをどう受けとめていくかということをおたちは大事にしてきました。いろんな目に見える学校に対する援助とか、その目的などを明確にして、学校現場と共有しながらやっていると、ある程度の成果につながっているのかなと考えています。

それから、これもすごく思うんですけども、新型コロナウイルス感染症による休校で子どもたちの休みがとて長くあって、それはそれで早く学校に行きたい、早く学校へ行ってお友達をつくりたいとかね、勉強もしたいという思いがずっと募ってきたというのは、まぎれもないことだと思うんです。ただ、いざ学校が始まってみると、頭の中で描いていたことと違って、学校に行きづらくなる子どもたちが増えるんじゃないかなと。初めは、私も早く学校を始めてあげられたらいいのにと思っていたんですけども、だんだん、この日からやっといこうという話が出てきてから、子どもたちは本当に前向きに登校できるかな、行きたくないという子が何人も出てくるんじゃないかと懸念しました。その中で、先ほど浦嶋先生にも言っていたいただきましたけれ

ども、子どもたちがどんな思いでいるか、なぜ行きたくないのか、しっかり予測できる状況を考えて、どのような対策が必要なのかを想定して、学校も教育委員会も一緒に考えていけたらと考えました。

それから、三川先生からお話がありましたように、災害時等における社会教育のあり方を見直していく時期にあるのかなというふうに思いました。

いろいろと取り組んでいるんですけれども、三川先生と浦嶋先生から、ご指摘いただいて、また改善していく部分とか、進めていく部分とかね、深めていく部分とかいうのが見えてきたかなと思いました。どうも、ありがとうございました。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

続きまして、片山委員、お願いいたします。

片山委員

先ほどは三川先生、浦嶋先生、ご示唆に富んだ貴重なご意見ありがとうございました。

従来より三川先生から、キャリア教育ということの大切さについて、何度も何度も話を伺わせていただいております。今回、やっとキャリア教育というものが、「茨木っ子キャリアパスポート」という形で幼児期から導入できるということで、そういうことが具体化できたということが、非常に喜ばしいことだと思っております。これも先生の力強いご支援があったからこそだと思っております。

こういうパスポートを使って子どもたちが、自らの学習とか体験活動を振り返って自己の成長過程を確認することは、本当に人間形成上とても大切なことだと思います。子どもたちがこのパスポートを使って、非認知能力がはぐくまれるということが大いに私たちも期待しているところでございます。今後とも、三川先生、よろしくご指導お願い申し上げたいと思います。

今回の点検評価報告書ですが、先ほどご指摘いただいておりますように、事務事業もかなりたくさんありますので、なかなか一般市民の方のご理解が難しいところもあるかもわかりません。当然、議会の先生方にもご報告してチェックを受けるということになっておりますので、どうしても網羅的な形になろうかと思っております。そのあたりの点が表現上、難しいなと思っております。

今回の点検評価報告書を見まして、新型コロナウイルス感染症の影響を多分に受けている内容になっているなというふうに思います。感染予防のための休校や休園、それから社会教育施設の休館、多くの事業の休止が書かれており、数値実績ではっきりとそのあたりが低下しているということが書かれておりまして、やはりこの新型コロナウイルス感染症の問題の大きさがはっきりとこの事業の評価に出てきたなど。次年度はさらにそのあたりが大きくなるのではないかと思います。

こういう突発的なコロナの事態に対して、例えば教育センターでは、オンラインによる授業配信を行ったり、あるいは図書館ではホームページで貸し出しができるシステムを導入したり、あるいは電子図書とかデジタル情報ですね、そういう資料を提供する補完的なサービスについて十分前向きに検討していただいているというのが、この報告書の中にあらわれているように、私は思っております。

これ以外でも、いろいろな事業で新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、今後のあり方をどうしたらいいかというような検討とか方向性をね、打ち出しているという記述をされているものも含まれておりまして、そういうふうに絶えず前向きな姿勢があらわれているのが、私としては嬉しく思っております。

今現在、第2波の感染拡大になっておりますが、冬にはインフルエンザがさらに加わるというようなこともありまして、こういうコロナ時代を迎えて、今後の事業の展開のあり方はどうしたらいいのかということは大変難しい課題です。なかなか目に見えない、また性格もわからない相手ですので、どういうふうに取り組んだらいいのかということを、これからいろんな知見を集めて、どういう事業展開をしていったらいいのか、教育にかかわらず全てのジャンルにおいて、どういう事業展開をしていったらいいのか、非常に悩むところでございます。そういう点でも先生方のお知恵をお借りできれば幸いでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

続きまして、篠永委員、お願いいたします。

篠永委員

篠永です。三川先生、浦嶋先生、詳細なご意見、ご解説いただきまして、ありがとうございます。話題が重なりとイケないと思いますので、私のほうからは2点ほど絞って所感を述べさせていただきたいと思います。

三川先生、浦嶋先生、お二人とも言及なさっておられました教員のストレスというところがあったかと思うんですけれども、令和元年度の特に後半は、従前の仕事と合わせてまさに時々刻々と変わる状況で新型コロナウイルス感染症対応をしていったという学校の現場というのは、大変なストレスがあったと思います。これはまた今後、検証されることだとは思いますが、私自身も肌で感じてはいるところです。

その中で、三川先生からストレスチェックの受検率の低さをご指摘いただいたと思います。学校現場の全国的な受検率について、何かまとまった発表があるのかよく知らないんですけれども、私も産業医のライセンスを持っているので、個人的に産業医の仲間に受検率を聞くと、9割ぐらいというところもあれば、6～7割台というところもあります。全国的な、あるいは大阪府内、北摂域内でどうなっているかという実態がまだ明らかになっていないというのは1つ、ストレスチェックの制度自身が3年目だか4年目になるというところもあって、まだそのあたり、集計がしっかり出来ているのかいないのかというところがあります。比べる対象がよく分からなくて、これが本当に高いのか低いのかという議論についてはすこし慎重にしたいとは思いますが、実際、産業医をやっている者の立場からすると受検率の大小にかかわらず、結局、蓋を開けたときの高ストレス者は対象の大体上位1割ぐらいで、高ストレス者は通常面談の対象になります。ここが大事だと思うんですけど、面談の対象となった高ストレス者が、産業医の面談を本当に何人受けているのかというところまで掘り下げる必要があると思います。だから、ストレスチェックの受検率が何%だということもそうですし、本当に面談がどれぐらいされているのかというようなところも、今後はそういうデータが上がっていかないと評価が出来ないと思います。そして、そもそも産業医の配備の充実が本当に大事になってくるころなんではないかなと思います。

そういう先生方の働き方改革が、浦嶋先生のおっしゃる、子どもの本当の学びに通じる改革になるというふうに思っておりますので、このストレスチェックに関しては、今後、本腰を入れて考えていかないとイケないところで、この受検率が低いか高いかの議論、それだけでいいのかというところを、私としては指摘したいところでありま

す。

もう1点は、片山先生も新型コロナウイルス感染症の対応についての話をしていたところですが、この資料では一番後ろのほうの見開きに参考として掲載されています。茨木市が本当に大混乱を極めた年度またぎの新型コロナウイルス感染症、当市の教育委員会が全力を挙げて対応していったわけなんですけれども、おおむね本当によくしていただいたと思っております。

その中で振り返ると、国や大阪府から要請があつて、それに基づいて3月初めから3月末まで、幼稚園においては休園、小中学校においては休校ということで、右へ倣えで、そういう感染症対策を行ったわけですけど、ただ保育所は開いていたんですね。保育現場では、ものすごくストレスで、もう混乱を極めかけ、パニックになりかけたと思います。感染症対策については、食中毒とか、インフルエンザ予防接種とかコロナ禍でなくても当然しているわけですけども。それ以上に強烈なインパクトを持った新型コロナウイルス感染症、どういうものか分からないという怖さがやっぱり保育所の現場にそのままのしかかってきた。でも、社会を動かすために必要な職種の保護者の方の子どもを預からないといけないということで、その使命感に燃えて保育所の職員が一致団結して、士気を奮い立たせて子どもの保育に当たったということを忘れてはならないと思っております。保育現場への感染症対応の支援が、国として、府としてもう少し早く充実出来たらという気はします。恐らく、これは次の冬も同じような状況になると思いますので、市としてバックアップして行って保育の現場を守ってほしいなと思っております。その中でも、まさに新しい学校様式といいますか学校生活として、卒業式とかを人数、規模を縮小して、出来る限りのことはしていったということは本当に頭の下がる思いでおります。

ただ、この冬がどうなるかということについては、日々変わってきています。新しい情報やその変化についていくということのストレスといいますか、それで燃え尽きてしまわないようにしないとけない。今後も茨木市教育委員会自身が学校運営全般をけん引していくということを信じて、私も微力ですけども教育委員の1人として努力していきたいと考えております。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

続きまして、堀村委員、お願いいたします。

堀村委員

三川先生、浦嶋先生、いろいろと示唆に富む意見、評価をいただきましてありがとうございました。

先ほどから話に出ていますが、私もこの点検評価報告書にかかわる者として読ませていただいて、とても分かりやすく、今までの課題、これからやるべきこと、いろいろなものが分かりやすく表現されていると思って見ていたんですけれども、これをやはり保護者の方等にもしっかり読んでいただいて、茨木の教育目標を共有していきたいと思うので、読んでいただくということが肝心になると思います。この点検評価報告書はこれでいいと思うんですけれども、また別途、違う形で読みやすく、分かりやすくというところを何か出来ればと思っていた次第です。

そのほか、両先生から「茨木っ子キャリアパスポート」について、幼児教育の段階から行うのは全国的にも珍しいよい取組だということをご評価いただきました。とても嬉しく思っていたところです。このキャリアパスポートを積み重ねていくということで、自分自身を客観的に見つめ直す、もし大きくなっていく上で、つまづいたときに小さいころの自分に出会って、それに励まされて、また歩みだせるというようなものにつながるのかなと思っています。

あと、キャリアパスポートとあわせて、今年度から中学生には「いま未来手帳」というものも配布されるようになっております。「いま未来手帳」で、中学生が自分自身の経験を振り返って、それを学んで、自分のものとして深く学んでいくというものにつながることを目指して配られているところです。私自身も、中学生の頃から手帳を愛用してまして、自分自身の振り返り等にも使えてきたので、中学生自身がそれを活用して、うまく学びにつなげていただければなというふうに期待しているところがあります。令和2年度の報告書の中に、この手帳を使った生徒たちの感想みたいなものを盛り込めればなと思っています。

最後に、先生方からも出ています新型コロナウイルス感染症対応ですけれども、茨木市では早くから先生方の工夫が詰まった授業のオンライン配信がなされていました。また、通信環境の整っていない子どもたちに届けるために、タブレットパソコンやインターネット環境の貸し出し、インターネット環境のない人には複製したDVDを配

って、同じ教育環境を提供するという工夫もなされていました。まさに、1人も見捨てることなく、全ての子どもたちの学びをとめないという先生方のご努力に本当に頭の下がる思いです。

これを機に、1人1台のタブレットパソコンなど、双方向オンライン授業ができる環境を整えるということで、これから来るだろう新型コロナウイルス感染症にも対応出来るような準備が進められていると聞いております。また、新型コロナウイルス感染症対応だけでなく、オンラインで双方向授業が出来るということは、不登校の子どもたちが在宅で授業を受けたりというところにもつなげられると思いますので、新型コロナウイルス感染症対応だけでとどまらずデジタル教材などを活用して、よりよい教育環境を整えることにつなげていければと思っております。

ただ一方で、毎日通園や通学するということのありがたみも、この新型コロナウイルス感染症を機に、また改めて実感しているところです。先ほど、子どもたちが被害者だという言葉がありましたけれども、やはり学校に通学できる、通園できるということは、本当に子どもたちには非常な喜びだと思っておりますので、私たちも努力して、これが実現していけるように努力してまいりたいと思っております。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

続きまして、岡田教育長、よろしく願いいたします。

岡田教育長

三川先生、浦嶋先生、本当にありがとうございます。この取組というか、今までの12年間、3年サイクルの第4次ということでの最終年度の総括ということですが、この12年間やってきたことで教育現場と教育委員会が、割と密接につながったというのが一番の成果だと思っております。今回の新型コロナウイルス感染症の対応に関しましても、教育委員会と校長会で話ししたことが全ての教員にきちっと伝わっており、対応していただいた。先週ぐらいから学校訪問をしていますけど、マスクをしながら教員が授業をしていて、子どもたちもマスクしていると、今までと違った雰囲気の中でやっていますけど、集中してそれなりにやっているかなと思います。

あと、継続していくというのが力になっていっていると思います。やはり教員自身も

そういうものだ理解している。逆に言えば、茨木の子どもたちにとっても、教員はこういう形でやっていくというのが、出来上ってきていますので、そこは今後も大切にしていきたいと思います。だから、この総括の中でも、少しずつそれが見えてきているのかなと思っています。

それから、新型コロナウイルス感染症の対応につきましては、私自身は人が集まってぬくもりの中で教育をするというのが一番必要かとは思っているんですけど、ただ、それだけではもうやっていけない状況になっている。ネット配信なり、ZOOMを使った双方向の授業とかは、もう1つのツールとして、きちっと1人も見捨てへん中で環境を作っていかなければならないというのは、ひしひしと感じました。

特に不登校の子どもたちとか、学力的、また経済的にしんどい家庭にある子どもたちをどうフォローしていくのか、そこが一番ポイントになると思います。これからもそこを大事にしていきたいと思っています。

浦嶋先生から指摘いただいた中で、参加者の反響、子どもたちや保護者の意見とか感想とか、そういうものがあればすごく読んでいても、そういう気持ちでいるのかとか、これがそういうことで役立っているのかと分かるので、そういう部分は今後、掲載をしていくことが必要なのかと思いました。

それから、なかなか難しいですけども、評価ですね、どこまで出来ているのかというのは、ここも少し考えていく必要があるのかなと。それが先ほど話のあった、市民にとって分かりやすい点検評価報告書になるのかと思いますので、1つ考えられるのは、茨木市の教育の全体の図があって、その図の中のこれがここですよというのがあれば、何かこうイメージしやすく、市民にとって理解しやすいのではないかと若干思いました。ご指摘を受けて思ったところなので、また今後、考えていきたいと思っています。

それから、三川先生からいつも言われています、非認知能力とか、それからキャリア教育ですね、これはもう今後の茨木市の中心としてやっていきたいと思っています。

こないだ中学校訪問をした時に、子どもたちが書いている「いま未来手帳」を少し見せてもらったんですけど、短いですけどいろんなことを書いています。しんどかったとか、いつ学校が始まるのかなというのを心配していたとか、いろいろ自分のことも書いてありました。それからやはり、この新型コロナウイルス感染症の中で、子どもたちが自分の生活設計というか、学習の設計も、いつ、何をやるかというのも少し

ずつ書けている。学力的に少し課題のある子どもたちも、少しずつですけれども書いていますので、これを何年か続ければ身についていくと思いますので、そこは期待しているところです。

もう1つ、最後に、保幼小中連携が大切だというお話がありましたけど、非認知能力というのは、今入ってきていただいている先生にお聞きするとやはり保育所とか幼稚園の年代が一番吸収して身についていくところだと。小学校4年生とか5年生、もちろん私たち大人も非認知能力を育てることは出来るんですけど、一番入るのはそのあたりだというのがあるので、そこをやっぱりポイントに保幼小中というつながりですね、そこを考えていきたいといろいろなお話を聞いて思いました。

今、少し課題になっているのが、私立の保育所と幼稚園との連携をどのようにしていくのかということです。すでに説明をしに行きましたので、取り組んでもらえるところは、今年から取り組んでもらえると思っていますが、市内の教育施設、保育施設と一緒にやっての教育をしていきたいと思っています。成果が出るのは先にはなりますし、成果がどんな形で見えるのか分からないですけど、そこは大切と思っています。この12年間の一つ一つの総括を含めて次のステップに上がっていきたいと思います。本当にいろいろご指摘ありがとうございました。

玉谷教育政策課長

ありがとうございました。

それでは、意見交換ということで、改めましてご意見等ございましたら、よろしくお願いたします。

三川先生

教育委員の先生方、ありがとうございました。先ほどのストレスチェックのことについて、ご専門の立場からご指摘がありました。私は、全国平均とか大阪府平均は知らないんです。毎年、この報告書を見ているのですが、今まで目につかなかったのか、ただ今回、75.1%という数字を見て、全員が受けることになっているのに低いと思ったということです。それで、指摘をさせていただいて、今回ご回答いただいているということです。改めて全国的にどれぐらいなのかということは確認をしていきたいと思っています。

もう1つ、大事なところは、ご指摘いただいた、これをもとに医師の面談をというところももう1つなんです、実はこのストレスチェックの結果をもとにして、職場の環境改善に役立てるということが、このストレスチェック制度の大きな目標なんですよ。つまり、高ストレス者の早期発見、早期対応、メンタル不調を防ぐというのはもちろん大きな目的ですが、4つ掲げられていたうちの2つが、快適職場づくり、職場組織の改善に努める、つまりそれは管理監督者が学校であったら多分、校長先生になるのかもしれませんが、それを踏まえて、職場の人間関係を含めた組織改革に努めるというところが大事で、ひょっとするとこのあたりが各学校によって取組が違うのかもしれませんが。

もう1つ、「茨木っ子キャリアパスポート」について、教育委員の先生方もご注目くださいました。私は、高校版でしたけれども作成するのをお手伝いしたという、そんな経緯があって、何でこんなお手伝いをしたかという、やっぱり自分自身の体験を振り返って、言葉にして、人が分かるように伝えとか、後で自分が読んで分かるようにして残しておくということが非認知能力、これからの社会を生きていくための力を育成するのに必要だとずっと思っていたということがあります。

それは何かというと、私自身もこれ、実は職業体験をした男の子と会ったというのがきっかけになったんです。本当は行きたくなかった職業体験、造園業でしたけれども、そこに行かせられたんですよ。嫌や、嫌やと言うのに先生が説得して、何とか行ってこいって言って、行かせたんです。3日間ですけれども、何とかやり通せたんですよ。毎回毎回、振り返りのシートがあります、今で言うところのキャリアパスポートのようなシートがあって、1日目も2日目も何にも書いていなかったんですけど、3日目だけ、たった1行、行ってよかったって書いてあったんですよ。先生方はよかった、ほっとしたって言うんですけど、私はそこで、何で行ってよかったって書いたんでしょかって聞いたら、担任の先生が、いや、行ったら面白かったのではないですかと言うので、それは子どもに会って聞かないと分からないでしょうと言って、聞いてもらったんです。すると、嬉しかったと本人が語ってくれたんですよ。何が嬉しかったかって、ここですよ。そうすると、誉めてもらったって言うんですよ。いろんなことが長続きしなかった、生徒指導上の問題があるようなそんな生徒さんだったそうですけれども、今回3日間頑張れたことを誉めてもらったからで、僕は誉められると頑張れるんやあって、そこが本人の気づきなんですよ。2年生のときの職業

体験で、3年生になった時に、3年生になったら誉めてもらえるように頑張りたいとここまで引き出してくれたのが担任の先生なんです。だから、たった1行の行ってよかったから、どれだけその子どもの体験を膨らませたり、深めたり、広げたりすることができるか、キャリアパスポートを大事にしてくださいと言うときには、よくこの話を申し上げております。教育長のおっしゃった「いま未来手帳」に、わずかに書いてあったということですが、これをもとに担任の先生方にはぜひ、子どもとの対話に、主体的、対話的な学びにつながるように活用していただきたい、そんなふうに思っているところであります。

私自身も、このように振り返りをするということを大事にしていまいりました。例えば、さっきキャリアパスポートのことを言いましたけども、2分の1成人式って4年生でやりますよね、あれはそのときにも意味があるんですけど、本当に成人式を迎えたときに、もう一回、4年生のあの10歳のときにどんなことを考えていたかと振り返るときに意味があるので、今の教育活動よりも10年後の彼らのために今、先生方にはこのような作業をしていただいている、そんなふうに思っただけだと思います。

私はこの新型コロナウイルス感染症の自粛の間、自分がかつてから書きためたノートを、25年前の94年ぐらいの時からずっと見直していて、あまり成長してないことを感じたのが1つの結果でありましたけれども、それこそ、そのときに大事だと思っただけいろいろな資料とか、あるいは本からの抜き書きをもう一度振り返ってみて、新たな学びや気づきを得た、ああ、こんなふうを書いて残しておく、後になってから役に立つんだということを実感したというのも、少しつけ加えさせていただいて、これから先の子どもたちのためにこの資料をつくってあげていただきたい。そんなふうに思っているところであります。

以上でございます、失礼いたしました。

浦嶋先生

キャリアパスポートのことが話題になっていますけども、これまでいろんな形で、間接的にですが、茨木の教育とかかわらせていただいている経験から言いますと、先ほど教育長のお言葉の中にぬくもりの中で教育をしてきたんだというお話がありましたけども、つまり人との出会いを大事にしながら、いろんな教育の営みを積み上げてきていただいている。親と子であったり、先生と子どもであったり、上級生と下級生で

あったりという縦のつながりや、子ども同士、いろんな取組を通じて絆を作っていく横のつながり。あと上でもない、下でもない、横でもない、地域の方との斜めの関係を大事にしながら、ぬくもりの中で教育をされてきているというのがあったと思います。そこまではね、割といろんなところで取組があるんですけど、それと合わせて、茨木がこだわってこられたのは、進路という言い方もありますけども、このキャリアパスポートでいうと個人の中の時間軸、今の自分と未来の自分とのつながり、人と人とのつながりも大事ですけども、自分の未来とのつながりをどう考えるのかということに非常にこだわってこられたという印象があります。それが今、形となって、幼児教育からのキャリアパスポートというような具体的な形になったのではないかなと思います。また、私立まで巻き込んでという話がありましたけれども、そこも本当は非常に難しいところですけども、そこまで面の広がりをつくるということで、非常にまた期待したいなという感じで受けとめました。

その中で、この新型コロナウイルス感染症の時代で、大事にされてきた人との出会いなんかもいろんな形があるのではないかなということ、先日、ある学生の言葉から思いました。今、ZOOMとかでいろんな会議とかやっていますよね。今の若者の感覚というのは、それでもやっぱり出会いなんですよね。私たちは、直接お会いしてそこで出会いという言葉を使いたいですけども、今の若者は画面を通じて、いろんな人と交流したりしている。自分の感覚とは違う感覚を若者は持っている。ひょっとしたら、この出会いという言葉も、これからのこの新しいコロナ時代の中では、いろんな形があるのではないかなと、ふと今、教育長のお話を聞いて思いました。

この状況の中で、行政として、本当に今まで以上に臨機応変といいますか柔軟かつ機動的に、いろんなことが求められて、実際にやってこられたと思うんですね。そういったことがますます、この新しい生活様式と言われる中で、新しい学校教育の確立というようなことでも求められてくるのではないかなと。どうなるか想像がつきにくいんですけども、より一層、柔軟な頭で考えていく必要があるかなと思いました。

キャリアパスポートやいま未来手帳の話に戻りますが、ぜひまた中身をいちど見せていただきたいなと思いました。

玉谷教育政策課長

貴重なご意見どうもありがとうございました。

それでは、この意見交換会を閉会とさせていただきます、教育長にお願いいたします。

岡田教育長

今日は、三川先生、浦嶋先生、本当にいろいろなご意見ありがとうございました。ご意見、それからご指摘いただきましたことにつきましては、今後の茨木市の教育行政に活かしていきたいと、特に具体的なものを言っていたので、ちょっとまた新しい形でということで考えさせていただきたいと思います。今後ともまた、よろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。

ほかに、何か質疑される点はございませんか。

質疑を打ち切りましても異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めまして、質疑を打ち切ります。

ただいまより各委員の賛否及び意見を求めます。

(各委員「原案賛成」の発言あり)

岡田教育長

各委員のご意見は原案に対して賛成であります。

本件は原案のとおり、決することに異議ございませんか。

(各委員「異議なし」の発言あり)

岡田教育長

異議なしと認めます。

よって、議案第28号は原案のとおり可決されました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全部終了いたしました。
令和2年第11回茨木市教育委員会臨時会を閉会いたします。
どうもご苦労さまでした。ありがとうございました。

(15時18分 閉会)

以上会議の顛末を記載し、茨木市教育委員会会議規則第17条によりここに署名する。

令和2年8月25日

茨 木 市 教 育 委 員 会

教 育 長 _____

署 名 委 員 _____